実 習 要 項

社会保険船橋保健看護専門学校
看護学科

目　　次

Ⅰ．教育目的・教育目標・看護学の構築 ……1

Ⅱ．実習目的・実習目標・単位・時間数 ……2

Ⅲ．臨地実習計画表 ……3

Ⅳ．実習評価・単位認定 ……4

Ⅴ．基礎看護学実習
　１．基礎看護学実習Ⅰ―１ ……6
　２．基礎看護学実習Ⅰ―２ ……8
　３．基礎看護学実習Ⅱ ……12

Ⅵ．在宅看護論実習
　１．訪問看護事業室看護実習
　　船橋市訪問看護ステーション実習 ……16
　２．外来看護実習 ……18
　３．健康管理センター実習 ……19
　４．保健所実習 ……20

Ⅶ．精神看護学実習
　１．病棟実習 ……22
　２．デイケア実習 ……25

Ⅷ. 母性看護学実習
１．外来・病棟実習 ……27
２．助産所実習 ……31
３．性教育機関実習 ……32

Ⅸ．小児看護学実習
１．病棟実習 ……35
２．重症心身障害児病棟実習 ……37
３．保育園実習 ……38

Ⅹ．成人看護学実習
１．成人看護学実習Ⅰ（急性期） ……42
２．成人看護学実習Ⅱ（回復期） ……45
３．成人看護学実習Ⅲ（慢性期） ……47
４．成人看護学実習Ⅳ（終末期） ……49

ⅩⅠ．老年看護学実習
１．病棟実習 ……53
２．特別養護老人ホーム ……54
３．養護老人ホーム ……56
４．老人保健施設実習 ……57
５．老人福祉センター ……58

ⅩⅡ．実習上の留意点 ……59

ⅩⅢ．実習上の諸注意 ……61

Ⅰ．教育目的・教育目標

1）教育目的

看護に必要な基礎的能力を養い、専門職業人としての責務を認識し、保健医療福祉活動の中で看護が実践できる人材を育成する。

2）教育目標

・人間を身体的・精神的・社会的に統合された存在として理解できる能力を身につける。

・科学的思考に基づき、対象に応じた看護が実践できる能力を習得する。

・一人ひとりの人間を尊重できる豊かな人間性を身につける。

・社会保障制度を理解し、保健・医療・福祉チームの一員として看護職の役割を果たす能力を習得する。

・専門職業人としての誇りを持ち、生涯にわたって自己研鑽していく姿勢を身につける。

看護学の構築

老年期の対象を理解し、加齢に伴う変化や健康状態に応じた援助方法を学ぶ。

成人期の対象を理解し健康の保持増進、疾病の予防、健康障害の回復に対する援助方法を学ぶ。

小児の成長発達段階や健康状態に応じた援助方法を学ぶ。

各ライフステージにおける性・生殖・育児に関わる看護の役割と援助方法を学ぶ。

ライフサイクルにおける心の発達と精神機能について理解し、看護全般に活用しうる精神の健康への看護と精神障害時の援助方法を学ぶ。

地域で療養する人々や障害をもちながら生活する人々とその家族を理解し、在宅での看護の役割と援助方法を学ぶ。

看護の対象を統合して理解し、あらゆる健康状態の人々に対し適切な看護が実践できるための基本的な考え方と基礎的看護技術を学ぶ。

Ⅱ．実習目的・実習目標・単位・時間数

1）実習目的

各看護学で学んだ理論や方法を実際の看護場面において体験し、看護の実践に必要な知識・技術・態度を学ぶ。

2）実習目標

- 看護の対象を理解し、その人に応じた看護が実践できる能力を養う。（基礎看護学実習）
- 在宅で療養している対象とその家族を総合的に理解し、健康問題に応じた看護が実践できる能力を養う。（在宅看護論実習）
- 対象が持つ精神の健康問題を総合的に理解し、その人に応じた看護が実践できる能力を養う。（精神看護学実習）
- 妊婦・産婦・褥婦および新生児とその家族を総合的に理解し、健康問題に応じた看護が実践できる能力を養う。（母性看護学実習）
- 小児期にある対象とその家族を総合的に理解し、健康問題に応じた看護が実践できる能力を養う。（小児看護学実習）
- 成人期にある対象を総合的に理解し、健康問題に応じた看護が実践できる能力を養う。（成人看護学実習）
- 老年期にある対象を総合的に理解し、健康問題に応じた看護が実践できる能力を養う。（老年看護学実習）

3）単位・時間数

基礎看護学実習	３単位	１３５時間
基礎看護学実習 Ⅰ	1単位	45 時間
基礎看護学実習 Ⅱ	2単位	90 時間
在宅看護論実習	２単位	９０時間
精神看護学実習	２単位	９０時間
母性看護学実習	２単位	９０時間
小児看護学実習	２単位	９０時間
成人看護学実習	８単位	３６０時間
成人看護学実習 Ⅰ	2単位	90 時間
成人看護学実習 Ⅱ	2単位	90 時間
成人看護学実習 Ⅲ	2単位	90 時間
成人看護学実習 Ⅳ	2単位	90 時間
老年看護学実習	４単位	１８０時間
合　計	２３単位	１０３５時間

Ⅲ．臨地実習計画表

年次	実習科目		単位・時間数		期　間	内　　容	実　習　場　所
1年次	基礎看護学	Ⅰ—1	1単位45時間	15時間	7月	看護の場の見学	社会保険船橋中央病院 千葉社会保険病院
		Ⅰ—2		30時間	1月～2月	日常生活の援助技術	社会保険船橋中央病院 千葉社会保険病院
3年次		Ⅱ	2単位 90時間		11月	テーマに沿った実習	
2年次～3年次	在宅看護論		2単位 90時間		2年次～3年次	在宅で療養している対象への看護	社会保険船橋中央病院 船橋市訪問看護ステーション 保健所
	精神看護学		2単位 90時間			精神に障害のある対象への看護	国立精神神経ｾﾝﾀｰ　国府台病院 復光会総武病院
	母性看護学		2単位 90時間			周産期にある対象の看護 性教育機関の活動	社会保険船橋中央病院 助産院 アーニ出版
	小児看護学		2単位 90時間			小児期にある対象の看護	社会保険船橋中央病院 国立療養所千葉東病院 保育所
	成人看護学		8単位 360時間 ・急性期 ・回復期 ・慢性期 ・終末期			成人期にある対象の看護	社会保険船橋中央病院 千葉社会保険病院
	老年看護学		4単位 180時間			老年期にある対象の看護	社会保険船橋中央病院 老人保健施設 特別養護老人ホーム 養護老人ホーム 老人福祉ｾﾝﾀｰ

Ⅳ．実習評価・単位認定

実習評価は学則及び授業科目の評価等に関する規程に基づいて行う。
学習者として学習状況を評価することにより課題を明確にし、習得すべき内容を広げ深めることが目的である。

1．評価を受ける資格
　1）規定時間数の５分の４以上出席していること。
　2）実習記録を提出していること。

2．単位認定
　評価は原則としてＡ・Ｂ・Ｃ・Ｄの４段階の評価とし、Ａ・Ｂ・Ｃは合格、Ｄは不合格とする。
　実習内容によっては評価を合格・不合格として評定する場合がある。

3．評価
　1）種類
　・観察記録法(OBSERVATION RECORD)－毎日の実習行動の観察、看護チームの意見
　・論述試験(ESSAY TEST)－論文、レポート類、実習記録、小テスト
　・口頭試験(ORAL TEST) －面接
　・その他－自己評価（評価表）
　2）評価方法
　・評価は学生の自己評価を参考に臨地実習指導者と教員が協議して行う。
　・評価・評定は実習終了後、個人面接を通して担当教員より知らせる。
　3）記録物の提出
　・学生は評価表を用いて実習を自己評価し、実習記録の一番上にファイルする。
　・実習記録は実習終了翌週初日の８時55分までに担当教員に提出する。

4．再実習・補習実習
　1）再実習について
　・実習内容不足によりＤの評価を受けた学生に対して、当該実習科目につき１回再実習を行うことができる。
　・再実習を受けようとする学生は、評価発表後３日以内に再実習願を庶務課に提出する。
　・再実習の評価はＣ又はＤとする。
　2）補習実習について
　・規定時間の５分の１以上欠席した学生は、当該実習科目につき１回補習実習をを受けることができる。
　・補習実習を受けようとする学生は学校が指定する期日までに補習実習願を庶務課に提出する。
　・補習実習の評価は規程に準じて行う。
　3）再実習・補習実習の実習期間は原則として、長期休業期間中（夏季休業，春季休業）に実施する。

Ⅴ．基礎看護学実習　（３単位）

目的

看護の対象を総合的に理解し、その人に応じた看護が実践できる能力を養う。

目標

基礎看護学実習Ⅰ－１

１．対象の療養環境と療養生活を理解する。

１）病院の概要を知る。

２）患者の療養生活を知る。

３）触れ合いを通して入院中の患者の気持ちを知る。

基礎看護学実習Ⅰ－２

１．対象の生活上のニーズを判断し、必要な日常生活の援助を実践する。

１）健康障害や入院により日常生活がどのように変化したのかを知る。

２）健康障害や生活の変化による患者の気持ちや反応を感じとることができる。

３）日常生活の援助の必要性を知る。

４）日常生活の援助ができる。

基礎看護学実習Ⅱ

１．看護に関するテーマを持ち、看護活動を主体的に実践し看護を深める。

１）実習体験をもとに看護に関する課題を明らかにする。

２）学習課題を達成するために研究的方法を用いて計画を立案する。

３）計画に基づき実践する。

４）実践した結果を論文としてまとめる。

５）まとめた学習内容を発表し、看護についての学習を共有し深める。

構成

基礎看護学実習 ３単位　135 時間	基礎看護学実習Ⅰ－１	患者との出会い	15時間
	基礎看護学実習Ⅰ－２	初めての看護体験	30時間
	基礎看護学実習Ⅱ	テーマをもった実習	90時間

基礎看護学実習Ⅰ－１

目標

1．対象の療養環境と療養生活を理解する。

1）病院の概要を知る。
（1）病院の構造･組織を知る。
（2）病院にはどのような部門・職種が存在しているかわかる。

2）患者の療養生活がわかる。
（1）病棟の構造を知る。
（2）患者の日課を知る。
（3）患者の物理的環境を知る。
（4）患者を取り巻く人的環境を知る。
（5）患者がどのような援助を受けているかわかる。

3）触れ合いを通して入院中の患者の気持ちを知る。
（1）入院目的を知る。
（2）入院生活についての患者の気持ちを知る。
（3）入院中の楽しみを知る。
（4）看護婦や他の医療職種について、どのように思っているかを知る。

方法

1．受持患者は持たない。(出会った人々を通して学ぶ)
見学を主たる実習方法とする。
2．病院見学は受診する気持ちをもって見学する。
3．患者との触れ合いを通して入院・看護や医療について考える機会を持つ。
4．カンファレンスは毎日行い、視野を広げる。

実習の進め方

実習オリエンテーション
（実習目的、実習目標、実習方法、実習記録、ユニフォーム）

第一日目

8時20分	２階研修室	13時~15時	病院見学
8時30分~ 9時20分	総看護婦長の話	15時~15時30分	カンファレンス
9時30分~12時	病棟		『感じたこと　考えたこと』

オリエンテーション（30分）－病棟の構造、患者の一日の生活など
看護婦と共に行動
患者との会話

第二日目

8時30分~11時	病棟 申し送りを聴く	14時30分~15時30分	カンファレンス
	看護婦と共に行動		『感じたこと　考えたこと』
	患者との会話		
12時~14時30分	病棟		

配膳
患者のサイドからケアを見る
患者との会話

実習終了後

9時~12時	グループでまとめる（発表の準備も含む）
13時~14時40分	発表・意見交換・まとめ・終了後17時までに、発表原稿を提出する

（発表時間は6分）　司会－学生２名、書記－学生２名

まとめ

レポートを提出する。
テーマは「基礎看護学実習 I-1を終えて」サブテーマは各自で考える。
原稿用紙　３枚以上。

評価

出席時間、実習内容、実習記録などから評価する。
基礎看護学実習I-2 終了後に最終評価を行う。

記録

Ａ４サイズ（用紙は縦）　横書きとする。
毎日の記録については、ルーズリーフでも可。

毎日の記録

基礎看護学実習（I-1）　月 日（ ）学籍番号　学生氏名

実習目標に添って記録する。

事実と感じたことや考えたことは
分けて記載する。

患者の氏名はイニシャルで記載する。
例　A氏, S氏 などと記載する

翌日朝担当教員に提出する。

レポートとしての記録

自分の学んだことを記載する。

今後の課題や展望も記載する。
自己評価も含む。

原稿用紙（Ａ－４横書き、４００字）
３枚以上
ボールペンで記載する。

（　月　　日）
朝８時５５分までに実習ファイルと
共に、担当教員に提出。

表紙の書き方

基礎看護学実習 I-1

テーマを記載
サブテーマ

月　日（ ）提出
学籍番号
氏名

※レポートには必ず
表紙を付ける

基礎看護学実習Ⅰ－2

目標

1．対象の生活上のニーズを判断し、必要な日常生活の援助を実践する。

1）健康障害や入院により日常生活がどのように変化したのかを知る。
（1）入院生活を知る。
①日常生活行動（一日の流れ）　②環境（物的環境・人的環境）
（2）生活行動が入院前の生活とどこがどのように異なるかを知る。
（3）生活行動の違いの理由・原因を知る。
（4）病気と治療内容を知る。

2）健康障害や生活の変化による患者の気持ちや反応を感じとることができる
（1）今の入院生活について患者がどのように思っているかを知る。
（2）入院について家族がどのように思っているかを知る。

3）日常生活の援助の必要性がわかる。
（1）日常生活において何が規制されているかがわかる。
（2）規制されている理由･原因がわかる。
（3）どういう援助を望んでいるかを知ることができる。
（4）どういう援助が必要かが考えられる。
（5）援助することでどう変化するかが考えられる。

4）日常生活の援助ができる
（1）援助する時注意しなければならないことが考えられる。
（安全, 安楽, ﾌﾟﾗｲﾊﾞｼｰ, 気持ち, 時間など）
（2）患者の持てる力を活用する方法を考えることができる。
（3）安全、安楽、自立を考えて実施できる。
（4）実施した援助を評価する。
①ニーズは充足できたか（患者は満足したか）。
②安全な方法であったか。
③安楽な方法であったか。
④自立を促す方法であったか。

方法

1．患者１名を受け持つ。
2．看護ケアは看護婦や教員の指導のもとに行う。
（看護ケアを行う前には実施方法を担当者に確認すること）
3．カンファレンスは毎日行い、視野を広げる。
4．行動計画は毎朝発表する。
5．記録は毎日所定の場所に置く。
6．『まとめの会』は実習終了翌週に行う。
・グループでのまとめ －発表に関する事項も含む。
・全体でのまとめ
発表原稿はまとめ会終了後提出する。
7．実習する基礎看護技術
1）判断技術
①観察　②報告　③記録（自己の実習記録）　④援助の必要性
2）人間関係技術
①コミュニケーション（グループダイナミックス）
3）生活行動援助技術
①食事　②呼吸・循環・体温　③清潔
④排泄（導尿、浣腸、留置カテーテル挿入を除く）
⑤環境　⑥移動・姿勢、休息・運動

4）診療に伴う援助技術
①感染予防（無菌操作を除く）

実習の進め方

第１日目　　８時２０分　　総婦長にあいさつ
　　８時３０分　　病棟で実習開始
　　病棟スタッフへあいさつ
　　病棟オリエンテーション
　　受持患者の紹介
　　受持患者の病気や治療について説明を受ける
　　受持患者の看護ケアへの参加　など

１５時～４５分間　　カンファレンス　テーマ　例『患者と接してみて』
　　その後明日の行動（援助）計画について考え、指導を受ける

第２，３，４日目
　　８時３０分　　病棟で実習
　　行動計画を指導者に発表する
　　看護ケアは看護婦と共に指導を受けながら行う
　　カンファレンス後、明日の行動（援助）計画について
　　考え、指導を受ける

第５日目
　　８時２０分　　総婦長にあいさつ
　　８時３０分　　病棟で実習
　１４時～１５時３０分　　最終カンファレンス

まとめ

実習のまとめとして、レポートを提出する。
- テーマは各自考える。
- 内容　実習中興味や関心をもった場面、気になった場面、学習になったと感じたことがら等を通して、対象の理解や日常生活の援助について、自分の考えをまとめる。
- 原稿用紙　４枚以上。

記録の提出

- 提出日は、　　月　　日（　　）８：５５迄、担当教員へグループ毎に提出する。
- 提出する物は、実習記録、レポート、評価表をファイルして提出する。
（評価表（自己評価）を一番上にファイルする）

評価

- 出席時間、実習内容、実習記録などから総合的に評価する。
- 評価表に自己評価する。
- 個人面接を受けながら担当教員より評価を聞く。
- 単位認定は、Ｉ―１を含めて評価する。

事前学習

１．看護の概念、人間や健康の見かた・考え方
２．ヘンダーソンの看護理論
３．病院とは
４．医療チーム
５．基礎看護方法論Ｉ
６．成人期・老年期の発達段階
７．受持患者の疾病と治療

記録

行動計画用紙（ A4サイズに2日分 ）
一日の行動計画　　月　日（ ）　学生氏名

時間	8 9 10 11 12 13 14 15 16
実習内容	援助項目，場所，　など 変更は理由を書く
感想	感じたこと　考えたこと　などを　記載

患者紹介　　基礎看護学実習Ⅰ－2　記録用紙 ①

受持ち期間　　年　月　日～　月　日　実習場所			
患者氏名　イニシャル	年齢　歳	男　女	職業
診断名（含　合併症、既往症　） ①　　優先度の高い疾患名から記載		性格・趣味・その他	
病歴　　何故入院となったか－－　具合が悪くなったことや受診したこと、病気になってからの生活状況を記載			
入院してからの健康状態 受け持ちまでの健康状態や入院生活の様子がわかるように記載			
治療方針と治療（ポイントのみ） 例　薬物療法の場合は　薬剤名と与薬方法			

日常生活の変化とその要因

基礎看護学実習Ⅰ−2　記録用紙 ②

	健康な時の日常生活状況	入院後の生活状況 患者の反応	看護の視点で感じた事，考えた事
呼吸 循環 体温			
食事			
排泄			
清潔 衣類			
移動・姿勢 活動・休息			
環境 安全			
信仰 職業 生産的活動 健康学習 余暇			
性			

※　2枚目からは入院後の生活状況のみ記載

日常生活援助の実際

基礎看護学実習Ⅰ−2　記録用紙 ③

援助項目	目　標　患者を主語にして記載する	
援助の必要性	援　助　方　法	結果と評価
援助が必要と思った理由や考えを記載する 一般的な知識と個人の情報も加えながら （判断技術の活用）	どのように実施していくかを記載する（4W1Hで記載） 視点 ・この患者の場合の安全とは ・この患者の場合の安楽とは ・患者の持てる力をふまえて ・自立を考えて ・観察項目を記載	実施直前や実施過程において計画を変更した場合は記載する 患者の反応をふまえながら援助したことはどうあったか振りかえる ①患者は満足したか（ニードが満たされたか） ②安楽に注意して実施できたか ③安全に実施できたか ④自立を促せたか

基礎看護学実習　Ⅱ

目的

看護の対象を総合的に理解し、その人に応じた看護が実践できる能力を養う

目標

1．看護に関するテーマを持ち、看護活動を主体的に実践し看護を深める。

1）実習体験をもとに看護に関する課題を明らかにする。
（1）探究したい看護や疑問を感じていることを明らかにすることができる。
（2）学習したい内容について、テーマ・動機・目的を明確にすることができる。

2）学習課題を達成するために研究的方法を用いて計画を立案する。
（1）学習方法を決定することができる。
（2）学習計画を立案することができる。

3）計画に基づき実践する。

4）実践した結果を論文としてまとめる。

5）まとめた学習内容を発表し、看護についての学習を共有し深める。

方法

1．今までの看護体験を振り返り、学習テーマを明確にする。

第１回目　春季休業終了後、「学習テーマの設定」を提出する。
１～４クールから選択

第２回目　７クール終了後、「学習テーマの設定」を提出する。
５～７クールから選択
８クール終了後、選択したテーマに基づき事例レポートをまとめる。

第３回目　夏季休業終了後、希望する学習の分野を提出する。

第４回目　実習開始前、「学習テーマの設定」を提出する。
学習の分野に合わせ受け持ち患者の決定をし学習テーマを絞る。

2．看護活動を主体性に実践する
記録様式など自分の学習テーマを考慮して選択し、実践する。

3．　論文は基礎看護方法論Ⅱ『看護研究』での学習に則ってまとめる。
（１２月）

4．学習成果は発表会を開き、全員で共有する。（国家試験後）

5．実習場所は提示された施設の中から選択する。
人数に合わせてテーマにより、教員を含めて話し合いで決定する。

6．準備･実践・まとめ・発表に至るまで主体的に教員を活用する。

7．研究発表には、３年生と１年生及び担当教員・臨地実習指導者が参加する。

評価

1．実習（看護活動）と研究の両面から評価する。

Ⅵ. 在宅看護論実習（２単位）

目的

在宅で療養している対象と対象をとりまく人々を総合的に理解し、健康問題に応じた看護ができる能力を養う。

目標

１．地域の特徴と住民の健康問題とニーズを知る。

１）地域の特徴を知る。
（１）人口構成と推移上の特徴がわかる。
（２）地理上の特徴がわかる。
２）住民の健康状態を知る。
（１）疾病構造、有訴者率、受療状況がわかる。
（２）健康上のニーズがわかる。
３）地域における保健活動を知る。
（１）公的・私的機関の役割がわかる。
（保健所、保健センター、市役所，健康管理センター）
４）社会資源の効果的な利用方法を知る。

２．地域で療養生活している対象への訪問看護の実際を知る。

１）対象と対象をとりまく環境を理解できる。
（１）人的環境（家族、地域等）がわかる。
（２）物的環境（地理上、医療機関、交通機関等）がわかる。
２）対象とその家族の生活状況を知る。
３）対象とその家族に対する援助の実際を知る。
（１）対象とその家族の看護に対するニーズがわかる。
（２）看護問題に対しての援助方法を立案することができる。
（３）家族と共に日常生活の援助を行なうことができる。
４）訪問看護を実施するための保健医療福祉チームの実際を知る。
（１）職種と役割がわかる。
（２）職種間の調整がどのように行なわれているかがわかる。
５）訪問時の基本となるマナーを身につける。

３．外来看護の役割と継続看護の意義を理解する。

１）外来を訪れる対象への看護を理解できる。
（１）外来を訪れる対象の特徴がわかる。
（２）在宅医療における外来看護の役割がわかる。
（３）外来の特徴をふまえての看護について考えられる。
２）外来患者における在宅療養相談の意義が理解できる。
（１）在宅療養相談の目的と相談・指導システムがわかる。
（２）相談・指導上の要点がわかる。
３）対象にとって、継続看護する必要・重要性が理解できる。

構成

在宅看護論実習 ２単位　90時間	在宅で療養している対象への訪問看護	54時間
	在宅で療養している対象への外来看護	21時間
	保健予防活動	15時間

事前学習

各実習施設における実習要項に記載

在宅看護論実習のスケジュール

	1週						2週						3週				
1	月	火	水	木	金		月	火	水	木	金		月	火	水	木	金
2	訪問看護事業室	訪問看護事業室	訪問計画立案	訪問看護事業室	まとめ	カンファレンス	健管	検診車	外療養科相	内科	内科	小児検診 カンファレンス	船橋市訪問看護ステーション	訪問計画立案	船橋市訪問看護ステーション	カンファレンス まとめ	保健所
3							外療養科相	健管	検診車								
4							検診車	外療養科相	健管								
5	健管	検診車	外療養科相	内科	内科	小児健診	訪問看護事業室	訪問看護事業室	訪問計画立案	訪問看護事業室	まとめ						
6	外療養科相	健管	検診車														
7	検診車	外療養科相	健管														

訪問看護事業室看護実習・
船橋市訪問看護ステーション実習

目的

在宅で療養生活している対象とその家族に対しての訪問看護の実際を学ぶ。

目標

1．対象と対象をとりまく環境を理解する。

1）人的環境がわかる。
（1）家族構成と家族のなかでの役割がわかる。
（2）対象とキーパーソンとの関係がわかる。
（3）周辺環境の人々との人間関係がわかる。

2）物的環境がわかる。
（1）療養環境（住居環境、地理上、交通機関など）がわかる。
（2）行政機関や医療・福祉機関の場所と利用方法がわかる。

2．対象とその家族の生活状況を理解する。

1）身体的機能、日常生活動作が評価できる。
2）生活状況（家族を含む）がわかる。
3）家族（援助者）のケア（介護）能力がわかる。
4）生活や治療についての対象や家族の気持ち（反応）がわかる。

3．対象とその家族に対する援助の実際を知る。

1）対象とその家族の看護に対するニーズがわかる。
2）在宅療養の継続を可能にする条件や阻害する因子がわかる。
3）看護問題とその援助方法を考えることができる。
4）ＱＯＬを高めるための方法を考えることができる。
5）看護技術の工夫や応用をしながら、指導者と共に援助をおこなう。

4．訪問看護を実施するための保健医療福祉チームの実際を知る。

1）社会資源の有効的活用を知る。
2）職種と役割が理解できる。
3）職種間の調整がどのように行われているかがわかる。
4）ホームドクター（家庭医）の役割がわかる。

5．訪問時の基本となるマナーを身につける。

方法

1．訪問看護事業室での実習
- 訪問看護活動は看護婦・保健婦、あるいは理学療法士とともに行う。
- １ケースに対して１～２名の学生が参加する。
  可能な限り医療依存の高いケースを同行訪問する。
  訪問しない時間帯は情報収集・計画立案や実施した看護の評価の時間に用いる。
- 実習中１ケースについては、看護過程を展開する。
- 行動計画は訪問看護事業室の訪問看護計画表を参考にしながら立案する。

2．船橋市訪問看護ステーションでの実習
- １グループ　５～６名　　4日間
- 学生１～２名で一ケースを受け持ち、訪問看護婦と一緒に訪問する。
  月曜日･水曜日は同行訪問をする。
  火曜日は、水曜日に訪問する対象把握と看護の必要性を考える。

記録

レポート
- テーマ　『訪問看護』
  訪問看護体験を基に、自分の考えをまとめる。
  原稿用紙　３～４枚。

記録類は在宅看護実習終了後に一括して提出する。

服装

- 船橋市訪問看護ステーション：スラックス（黒，紺，グレー）
  船橋中央病院　　：実習衣（帽子なし）
- ジーパンは避ける。
- 靴下は替え用を含めて２足　パンティスットキングは履かない。
- エプロン

持参物品

1・タオル。
2．社会資源活用についての用紙、メモ用紙（各自準備する）。
3．電話用コイン、テレフォンカード（各自準備する）。

その他

自転車を利用することがある。交通に十分留意すること。

事前学習

1．介護保険制度
2．千葉県にある訪問看護活動が行なわれている施設
3．船橋市と近郊にある保健・医療・福祉施設
4．訪問看護システム
5．訪問看護記録
6．実施する主な看護技術の演習
　受け持ちケースに実施する可能性の高い技術を中心に行なう
　①清拭　②洗髪　③入浴介助　④食事介助　⑤経管栄養
　⑥膀胱洗浄　⑥移動・動作への援助　⑦コミュニケーション
　⑧在宅酸素療法　⑨バイタルサイン測定　⑩服薬管理
　⑪自己注射　⑫自己血糖測定　⑬訪問記録

外来看護実習

目的

外来看護の役割と継続看護の意義を理解する。

目標

1．外来を訪れる対象への看護が理解できる。

1）在宅医療における外来看護の役割がわかる。

2）外来を訪れる対象の特徴がわかる。

3）外来の特徴（特殊性）をふまえての看護について考えることができる。
（1）外来を訪れる患者や家族の希望や期待を知ることができる。
（2）時間的規制のなかで、患者が安心して受診できるための援助方法を考えることができる。

2．外来患者療養相談活動の意義が理解できる。

1）在宅療養相談活動の目的と相談・指導システムがわかる。

2）相談・指導上の要点がわかる。

3．対象にとって継続看護する必要性・重要性が理解できる。

方法

学生は２～３名で行動するが外科外来と在宅療養相談室は１名で実習する。

1．内科外来　　1．5日（木曜日、金曜日の午前）
- 外来受診患者の受診から終了まで行動を共にする（最低一例）。
  受診目的，病気と生活，治療と生活　等について患者の気持ちや考えを聞き，外来看護について考える
- 受診時における患者の気持ちを考えながら、安心して受診できる援助方法を考える。
  ①患者とのコミュニケーション　②体位の保持への援助　③治療法への理解と日常生活上の留意点　など

2．外科外来　　0．5日
- 相談・指導の実際を知り，外来看護や看護の継続性について考える。

3．在宅療養相談室　0．5日（月曜日・火曜日・水曜日の午後）
- 相談・指導の実際を知り，外来看護や看護の継続性について考える。
- 集団検診に参加し，地域における病院の機能を知る。

記録

- 毎日の実習記録　　外来実習記録用紙
- レポート
  テーマ　『外来看護の役割』　　原稿用紙　３～４枚

在宅看護論実習終了後、他の実習記録と一緒に提出

事前学習

1．外来看護
2．在宅療養相談制度
3．集団検診（小児領域）
4．主な看護技術　　①小児の計測　　②診察時の看護

健康管理センター実習

目的

地域における保健活動－健康管理センターの実際を学ぶ。

目標

1．健康管理センターの役割を理解する。

1）センターの目的と組織がわかる。

2）健診の種類と目的がわかる。

3）看護職の役割がわかる。

2．看護の実際を理解する。

1）健診の実際を知る。

2）指導の目的と内容がわかる。
（1）個別指導の内容がわかる。
（2） 集団指導の内容がわかる。

3．被検者の健康に対する意識を知る。

方法

学生は1～2名で実習する。

1．健診センター
センター内で健診の実際を知る。
教育機能（健康相談）の実際を見学する。

2．検診車
検診車に同乗し、地域（職場）における健診の実際を知る。
①地域の特徴を知る。
②対象の身体測定を行う。
③健康相談を見学する。

記録

毎日の記録　　健康管理センター実習記録

服装

1．健診センター内・　検診車は、ユニホーム着用（帽子なし）する。

事前学習

1．健康診断に関する事項
2．診察に関する事項
3．主な看護技術
①各種測定　　②指導技術

保健所実習

目的

看護職の視点から人々の生活を守る保健所の役割と機能を理解する。

目標

1．地域の概況、住民の健康状況、住民のヘルスケアに関わる管内の保健医療福祉機関等、保健所で把握している保健情報、地域の保健水準や健康問題等について知る。

2．地域における保健所の役割について理解する。

1）保健所の役割と業務内容を知る。
①環境衛生に関すること。
②栄養の改善や食品衛生に関すること。
③未熟児、精神保健、難病、エイズ、結核　などに関すること。
④保健事業に関すること　等。

2）保健所が市役所、保健センターと連携・協力のもとに展開する保健活動を知る。

3．地域住民への保健・看護活動を理解する。

1）未熟児、精神保健、難病、エイズ、結核などに関する啓発活動の実際を知る。

2）未熟児、精神保健、難病、エイズ、結核などに関する相談活動、訪問看護活動を理解する。

方法

1．保健所で説明を受ける。

2．所内事業の見学をする。

記録

- 保健所実習記録用紙

レポート
テーマ　『保健予防活動について』健康管理ｾﾝﾀｰ実習と保健所実習の中から学び得たことをレポートする。
原稿用紙　３枚。
在宅看護論実習終了後他の記録と一緒に提出。

事前学習

1．出身地における保健所と保健センターの状況を知る ― 自分で予約をとる。
学習ポイント
①地域と地域住民の特徴　　②①に基づいた保健衛生対策
２年次の夏期あるいは春期の長期休暇を利用する。
※船橋市出身の場合は複数の保健センターを通して学習する。
学習後、レポートにまとめる。
原稿用紙　５～６枚
夏期休業（または春期休業）終了後提出。

2．保健所での実習開始前には下記の内容を学習しておくこと。
参考資料　『船橋保健所事業報告』、『保健所のしおり』など。

学習ポイント
①地域の特徴を知る。
・人口構成と推移上の特徴を知る。
・地理上の特徴を知る。
②住民の健康状態を知る。
・疾病構造、有訴者率、受療状況を知る。
・健康上のニーズを知る。
③地域における保健医療福祉機関と役割を知る。

3．各種法規
①地域保健法　②母子保健法　③老人保健法　④精神保健福祉法
⑤結核予防法　⑥身体障害者福祉法　⑦介護保健法
⑧感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律（感染症法）
⑨労働安全衛生法

Ⅶ. 精神看護学実習　（２単位）

目的

対象がもつ精神の健康問題を総合的に理解し、その人に応じた看護が実践できる能力を養う。

目標

１．対象を理解し、力動的接近の態度を身につける。

１）表情・言動を観察し、精神症状と関連づける。

２）生活史及び心理社会的側面の健康・不健康な部分を理解できる。
（１）発達段階がわかる。
（２）発達段階における親子関係がわかる。
（３）性格及び対処行動のパターンがわかる。
（４）社会への適応の仕方や、過去の最高レベルがわかる。

３）日常生活のセルフケアレベルを査定し、必要な援助を考えることができる
①空気、水、食物　②排泄　③個人衛生　④活動と休息
⑤孤独とつきあい　⑥安全を保つ能力

４）現在の家族関係を理解できる。

２．対象との対人関係場面を通して自己理解を深める。

１）異和感を感じた対人関係場面を再構成し自己の内面を洞察できる。
（１）感情を抑制せずにありのままの場面を再構成できる。
（２）両者間に生じた相互作用を考察できる。
（３）対人関係の特徴に気づく事ができる。
（４）自分の精神保健へとつなげることができる。

２）カンファレンスにおいて、自分の感情を言語化できる。
（１）感情を言語化する難しさがわかる。
（２）受容と共感の大切さがわかる。

３．主な精神疾患と治療を理解し、看護者の役割を理解する。

１）主な精神疾患を理解できる。
（１）主な精神疾患と症状の関連を理解できる。
（２）主な疾患の経過を理解できる。
（３）症状や障害が日常生活に及ぼす影響を理解できる。

２）主な治療方法と看護者の役割が理解できる。
（１）薬物療法の目的と看護者の役割がわかる。
（２）精神療法の目的と看護者の役割がわかる。
（３）集団療法（グループ）と看護者の役割がわかる。
（４）生活技能訓練法（ＳＳＴ）と看護者の役割がわかる。
（５）レクリエーション、作業療法の目的と看護者の役割がわかる。

４．精神保健福祉法の適用の実際と看護者の役割を理解する。

１）処遇の実際と看護者の対応を知る。
（１）入院形態の違いにより処遇の違いがあることがわかる。
（２）精神病棟の特殊な環境と安全管理がわかる。
（３）ペイシェントアドボカシー、インフォームドコンセントについて理解を深める。
（４）精神保健福祉法と人権の擁護の関連がわかる。

2）社会復帰にむけての支援システムが理解できる。
（1）精神障害者の社会復帰活動に参加することができる。
（2）地域生活者としての悩みや問題を理解する事ができる。
（3）保健医療福祉のチームの協働の重要性を理解する事ができる。
（4）社会資源の活用方法を理解する事ができる。

構成

精神看護学実習 2単位 90時間
- 精神障害があり施設に入院している患者への看護 78時間
- 地域で生活している対象への看護 12時間

方法

1．学生同士で固まらず、個人として存在し実習を行う。

2．複数の精神障害者を受け持ち、一名について看護過程を展開する。

3．グループでは、なるべく異なった疾病・性別・経過の患者を受け持つ。

4．病棟・デイケアのレクリエーション活動に1回は参加する。

5．再構成は最低1回行う。

6．毎日30分のカンファレンスを持つ。
バインダーやノートは持たず、円形で対面しながら行う。

7．実習施設全体のオリエンテーションは、実習開始前に施設に出向いて受ける。
病棟・デイケアのオリエンテーションは、各初日に受ける。

実習上の注意事項

1．鍵及び危険物の管理については病棟規則を厳守する。

2．院外レクリエーションに参加する場合は、担当教員に連絡する。
交通費及び諸経費は自己負担とする。　服装は私服。

3．上履きと外履き靴の区別をする。
総武病院の実習では、体育館靴を用意する。

4．自分の住所や電話番号は患者に知らせないこと。
対応に困る場合は臨地実習指導者や担当教員に相談する。

5．守秘義務を厳守する。
病棟を出たら、患者のことは口にしない。
メモ用紙の使用は禁止。必ずノートを使用する。
精神障害者は疾病のみならず、社会的偏見とも戦わなくてはならない境遇にある事を十分理解し、自分の行動を考える。

事前学習

1．改正精神保健福祉法　―　特に入院形態と処遇の基準
2．主な疾患と治療方法
3．向精神薬の作用と副作用
4．患者　―　看護者関係

精神看護学実習スケジュール

週	曜日	総武病院	国府台病院
1	月	病棟オリエンテーション	デイケア実習　オリエンテーション
	火	受持ち患者選定	デイケア実習　　グループ活動
	水		病棟オリエンテーション
	木		受持ち患者選定
	金		
2	月		
	火	看護計画提出	
	水		
	木		看護計画提出
	金		
3	月	デイケア実習　オリエンテーション	
	火	デイケア実習　　グループ活動	
	水	病棟	
	木	病棟	
	金	最終ｶﾝﾌｧﾚﾝｽ	最終カンファレンス

課題の提出

提出　　1．事前学習、実習中に用いた記録用紙一式
　　2．レポートテーマ
　　①「受け持ち患者のプロフィール」
　　②「実習を通して学んだこと」①②共に

デイケア実習

目的

地域で生活する精神障害者を理解する。
受持ち患者の退院後の生活についてイメージを抱く事ができる。
精神障害者への偏見を取り除く。

目標

1．デイケアの役割と機能を理解する。

1）施設の概要を知る。
①設置主体と規模　②入所・退所のプロセス　③活動の内容
④携わる職種　⑤費用と控除

2）通所者の特徴を理解する。
①疾患、年齢、性別　②居住地域と交通手段　③利用目的

2．通所と入院精神障害者の健康度の違いを理解する。

1）表情・言動・服装・活動性を観察する。

2）通所者の生活を理解する。
①外来通院と病状の自己管理
②服薬の自己管理
③金銭管理と時間の使い方
④家族関係と精神症状の関係

3）通所者の社会との関わり方を知る。
①人間関係の範囲

3．看護者の役割を理解する。

1）通所者への対応
①症状の観察と助言
②各活動における看護者の関わり方
③相談内容

2）家族への対応
①家族会　②電話相談

3）他職種との対応
①調整会議　②医療福祉機関との連携

方法

1．初日にオリエンテーションを受ける。

2．学生同士で固まらず、一人ずつの関わりをする。

3．通所者と行動を共にし、活動に参加する。

4．毎日カンファレンスを行う。

留意事項

1．服装は活動しやすい私服
2．靴は上靴と下靴を準備する
3．活動中の費用は自己負担とする
4．記録物は特になし
　受持ち患者の看護に活かす

事前学習

1．わが国の精神障害者数と入院患者数
2．精神障害者の社会復帰について国の政策、施設数
3．中間施設・デイケアの機能と目的
4．社会復帰支援システムと職種

Ⅷ. 母性看護学実習 （２単位）

目的

妊婦・産婦・褥婦及び新生児とその家族を総合的に理解し、健康問題に応じた看護が実践できる能力を養うとともに、性に関する看護者の役割を学ぶ。

目標

１．妊産婦の看護の必要性を理解し、基礎的な援助を実践する。

１）妊婦健診の目的を理解し、妊娠週数に応じた母体と胎児の観察ができる。
（１）妊娠週数に応じた身体の変化がわかる。
①体重、血圧、浮腫、蛋白尿　②子宮底、腹囲　③乳房
④胎位・胎向・胎児心音・胎動など
（２）心理状態がわかる。
（３）妊娠週数に応じた日常生活行動の変化がわかる。

２）妊娠経過が査定できる。

３）保健指導が理解できる。
（１）個別指導の内容と方法がわかる。
（２）母親学級の内容と方法がわかる。

４）分娩の経過を理解し、観察と援助ができる。
（１）陣痛の測定、胎児心音聴取、羊水、出血などの観察ができる。
（２）産痛緩和（補助動作・呼吸法）の援助ができる。
（３）産婦の心理を理解し援助ができる。
（４）日常生活（食事・排泄・清潔・休息など）の援助ができる。
（５）胎児の回旋及び娩出様式が観察できる。
（６）胎盤娩出の様式、残存物の確認ができる。

２．新生児の看護の必要性を理解し援助を実践する。

１）出生直後の児の観察と援助の方法が理解できる。
（１）第一呼吸の助成の必要性と方法がわかる。
（２）出生直後の児の観察内容がわかる。
①アプガールスコアの判定　②外表奇形　③分娩による影響
（３）保温・感染予防の処置の必要性と方法がわかる。
①保温　②臍処置　③点眼

２）新生児の生理的変化がわかり、日常生活への援助ができる。
（１）身体諸計測、生理的変化が観察できる。
（２）保育環境の調節ができる。
（３）おむつ交換、授乳、沐浴などができる。

３．褥婦の看護の必要性を理解し援助を実践する。

１）出生直後の観察と援助ができる。
（１）子宮収縮状態、裂傷の有無と部位、外陰部、肛門部、出血量の観察ができる。
（２）全身状態や疲労、心理状態の観察ができる。
（３）褥婦に対する労いと休息への援助が配慮できる。
（４）母児対面の必要性がわかり、援助できる。

2）産褥期の観察と経過に合わせたセルフケアへの援助ができる。
（1）進行性変化・退行性変化・心理状態の観察ができる。
（2）乳房の手当て・外陰部の保清の指導ができる。
（3）母乳栄養を促進するための援助ができる。
①乳房・乳頭・乳輪部マッサージ　②搾乳　③栄養　④リラックス
（4）子宮復古を促すための援助ができる。
①産褥体操　②輪状マッサージ
（5）退院後の生活に関する保健指導ができる。
①日常生活への適応　②感染予防　③性生活指導

3）母子関係成立に向けて、母親役割適応への援助ができる。
（1）育児行動、褥婦の児に対する表情やしぐさ、疲労の有無が観察できる。
（2）育児に関する保健指導の必要性と内容がわかる。

4）育児を継続していくために、家族の協力や地域関連機関との連携の必要性が理解できる。
（1）家族の理解と支援能力を知り、必要に応じた援助内容がわかる。
（2）所在地の保健センター、公的・私的相談所の紹介ができる。

4．地域における母子保健活動の実際を理解する。

1）助産所の機能と役割を知る。
（1）助産所を中心としたネットワークがわかる。
（2）助産所で行っている活動がわかる。

2）現代社会のニーズと助産所の特殊性を知る。
（1）助産所に求めているニーズがわかる。
（2）目的に応じた病院と助産所の出産援助の違いがわかる。

5．性教育・性の問題に関わる看護者の役割を理解する。
（1）性教育機関の目的と内容がわかる。
（2）性教育における看護者の役割が考えられる。
（3）婦人科外来の診察時における医療者の役割が考えられる。

構成

母性看護学実習 2単位　90時間	外来・病院における母性看護	72時間
	地域における母子保健活動の見学	12時間
	性教育機関の活動の見学	6時間

実習方法

—外来実習—

1．産科外来
（1）妊娠12週以降の妊婦健診を実施する。
受診する妊婦の事前把握のために産科外来で前日あるいは先週の金曜日の夕方に外来に保管してあるカルテから情報を収集する。
（2）妊婦の身体計測や観察を行う。
（3）健診に訪れる妊婦に現在の気持ちや妊娠による生活の変化、工夫していることなどを聞く。
（4）母親学級の見学を行う。

2．婦人科外来
（1）妊娠初期、婦人科疾患で受診する対象の援助を実施する。
診察（内診）を受ける患者の気持ちを考えた援助を看護者はどのように実施しているのかみる。

3．助産婦外来
（1）前日に受診する妊婦１～２名についてカルテから情報を収集し、対象に必要な保健指導を考える。
（2）妊娠中期・後期の助産婦による妊婦健診や保健指導を見学する。
（3）妊娠中期・後期の妊婦のマイナートラブルへの対処、貧血や妊娠中毒症予防、分娩への身体的・心理的・経済的準備についての指導がどのように実施されているか学ぶ。
（4）妊婦の身体計測や観察を行う。

—病棟実習—

1．受け持ち患者の選定
（1）原則として産褥が正常に経過するであろうと予測される産・褥婦を受け持つ
（2）できるだけ分娩第一期（帝王切開でも可能）から受け持つ。

2．分娩見学
（1）病棟実習期間中に一例は分娩を見学する事が望ましい。

3．生活指導の実施
（1）対象の健康問題に合わせた保健指導を実施する。
（2）保健指導案作成・指導の実施・評価を行う。

4．集団指導に目的をもって参加する。

母親学級	毎週	水	13:30 ～ 15:00
助産婦外来	毎週	火	13:00 ～ 15:30
退院指導	毎週	月・木	13:30 ～ 14:30
育児指導	毎週	火・金	13:30 ～ 14:30
沐浴指導	毎週	火・金	11:00 ～ 12:00
調乳指導	毎週	水・土	14:00 ～ 15:00

実習のスケジュール

	月	火	水	木	金	月	火	水	木	金	月	火	水	木	金
A	褥	新	分								半	○	性	助	助
B	褥	新	分								半	○	性	助	助
C	新	分	褥								半	○	性	助	助
D	新	分	褥								助	助	性	半	半
E	分	褥	新								助	助	性	半	半
F	分	褥	新								助	助	性	半	半

実習時間　90時間

60時間　病棟実習　・・□

12時間　助産所　・・助

6時間　性教育機関　・・性

12時間
- 婦人科外来／助産婦外来　・・○
- 産科外来／婦人科外来　・・半

事前学習

－病棟実習－

1．分娩第一期の看護
2．産褥期における進行性・退行性変化
3．母乳栄養確立へ向けての援助
4．子宮復古を促進させる援助
5．新生児の生理と観察

－外来実習－

1．妊娠各期の保健指導内容
2．妊婦診察時の諸計測法
3．診察時の介助（内診、経腟・経腹超音波）

助産所実習

目的

地域における母子保健活動を理解するとともに性に関する看護者の役割を学ぶ。

目標

1．助産所の機能と役割が理解できる。

1）助産所に求めているニーズがわかる。

2）助産所を中心としたネットワークを知る。

2．助産所で行っている活動の実際が理解できる。

1）助産所で行っている活動内容がわかる。

2）病院と助産所の目的に応じた出産援助の違いがわかる。

3）母乳栄養の指導内容と方法がわかる。

4）乳房マッサージの指導の実際がわかる。

方法

1．オリエンテーション
①運営方針　②社会のニーズと活動内容　③他の医療機関との連携

2．見学実習
①分娩に関する援助　②身体の計測・観察
③新生児の計測・観察・臍処置などケア　④乳房マッサージ
⑤母乳栄養

3．カンファレンス　実習のまとめ

記録

レポート
テーマ　『助産所実習を体験して』
原稿用紙　３～４枚

服装

動きやすいパンツスタイルに予防衣を着用する。
名札を付ける。

事前学習

1．助産所の特殊性
2．桶谷式乳房管理の実際

性教育機関見学実習

目的

性教育・性の問題に関わる看護者の役割を知る。

目標

1．性教育機関の目的と内容を理解する。

2．性教育における看護者の役割を考えることができる。

方法

1．テーマを選択する。
『性教育の概念』　『生命を伝える』　『差別と人権』などから選択する。

2．テーマにそってビデオ鑑賞する。
鑑賞後グループ討議、ロールプレイング

3．発表会
各グループの発表
発表形式やテーマは自由

記録

レポート
テーマは自由
原稿用紙　3～4枚

事前学習

1．性教育の概念
2．社会と性
自分の考えとしてまとめておく
・同性愛
・障害者の性
・買売春、援助交際
・セクシャルハラスメント

Ⅸ. 小児看護学実習　（２単位）

目的

小児期にある対象とその家族を総合的に理解し、健康問題に応じた看護が実践できる能力を養う。

目標

1．小児の成長・発達を対象を通して理解する。
　1）形態的成長の階段が理解できる。
　2）精神運動機能の発達が理解できる。
　3）生育歴が理解できる。

2．小児の成長・発達に応じた日常生活の援助方法を理解する。
　1）小児にとっての遊びの重要性が理解できる。
　2）小児にとっての望ましい環境が理解できる。
　3）小児が日常生活行動を獲得していくための保育方法が理解できる。
　4）周囲の人々の子どもへの関わり方が理解できる。
　5）施設における健康管理のあり方が理解できる。

3．病気や入院・治療が小児や家族に及ぼす影響を理解する。
　1）病気や入院・治療が小児の心身に及ぼす影響が理解できる。
　2）病気や入院・治療が家族に及ぼす影響が理解できる。

4．健康障害をもつ小児の成長・発達に応じた日常生活の援助を理解する。
　1）小児に適した環境を理解し整えることができる。
　2）小児の養護と日常生活への援助ができる。

5．小児看護に必要な基本技術・診療時の援助技術を身につける。
　1）バイタルサインの測定・身体計測ができる。
　2）小児の安全安楽を考えた診療・治療・検査の介助ができる。
　　（成長発達をふまえた小児の主体的な参加を考えて）
　3）起こりやすい事故の予測と予防ができる。

6．障害のある小児に対する理解を深める。
　1）障害を持つ小児の日常生活動作への養育が理解できる。
　2）小児の気持ちや考えを理解することができる。

7．社会資源や支援ネットワークについて理解し、看護者の役割を理解する。
　1）ノーマライゼーションについて考え、看護者としての役割がわかる。
　2）社会資源や支援ネットワークの実際を理解できる。
　3）小児がすこやかに成長していくために必要な、関連職種との連携を踏まえた看護者の役割がわかる。

構成

小児看護学実習
２単位　90時間

- 健康児の看護　18時間
- 障害児の看護　12時間
- 健康障害児の看護　60時間

実習スケジュール

	1週					2週					3週				
	月	火	水	木	金	月	火	水	木	金	月	火	水	木	金
1	保育所 ３箇所 (1名～2名)			重症心身障害児病棟		病棟実習					病棟実習				
2															
3															
4															
5															
6															

病院実習

目的

健康に障害のある小児及びその家族を総合的に理解し、適切な援助を行なうための基礎的な知識・技術・態度を学ぶ。

目標

1．小児の成長・発達段階を理解する。

1）形態的成長の段階が理解できる。

① 身長　②体重　③頭部　④胸部　⑤身体各部の割合　⑥歯
⑦ 骨の成長
⑧身体評価（カウプ指数・ローレル指数）

2）精神運動機能の発達が理解できる。

①感覚　②運動　③情緒　④社会性　⑤知的機能

3）生育歴が理解できる。

2．病気や入院・治療が小児や家族に及ぼす影響を理解する。

1）病気や入院・治療が小児の心身に及ぼす影響が理解できる。

（1）患児の病状の経過と予後がわかる。
（2）治療内容がわかる。
（3）病気や治療に対する小児の気持ちがわかる。
（4）日常生活習慣の変化がわかる。

2）病気や入院・治療が家族に及ぼす影響が理解できる。

（1）家族に及ぼす身体的・心理的・社会的影響がわかる。
（2）家族の抱える問題がわかる。

3．小児の成長・発達段階に応じた日常生活の援助を理解する。

1）小児に適した環境を理解し整えることができる。

（1）安全と成長発達を考慮した物的環境が整えられる。
（2）小児に必要な人的環境がわかる。

2）小児の養護と日常生活への援助ができる。

（1）食事への援助ができる。
（2）排泄への援助ができる。
（3）休息・睡眠への援助ができる。
（4）清潔への援助ができる。
（5）衣服の着脱への援助ができる。
（6）活動への援助ができる。
（7）小児に適した遊び（学習）への援助ができる。

4．小児看護に必要な基礎的技術・診察時の援助技術が理解できる。

1）バイタルサインの測定・身体計測ができる。

2）小児の安全安楽を考えた診察・検査・治療の介助ができる。

3）起こりやすい事故の予測と予防ができる。

（1）安全を阻害する因子がわかり、患児を危険から守ることができる。
（2）感染予防に対する基本的な行動を身につける。

5．社会資源や支援ネットワークの実際を理解する。
①小児慢性特定疾患対策　②養育医療　③保健所　④学校保健室

6．自己の小児観を養い小児看護に対する関心が深められる。

方法

1．グループで異なった疾病、異なった発達段階を持つ患児を受け持ち、学習を深める。

2．小児看護に必要な技術は受け持ち患児以外でも機会があれば見学及び一部実施する。

3．病棟の年間・月間・週間スケジュールを考慮し入院している児に適した行事をグループで実施する。

4．日常生活援助について発達段階に応じた方法を見学及び一部実施する。

事前学習

1．小児のバイタルサインの測定方法
2．診察の介助
3．実施する主な看護技術の演習
①衣服の着脱　②身体計測　③吸引　④肺理学療法　⑤採血
⑥輸液の固定法　⑦穿刺時の介助
4．病棟で起こりやすい事故と対策
5．小児看護の特徴と看護婦の役割
6．家族

服装

・エプロン着用（左胸に、布にひらがな記名した名札を縫い付ける）

重症心身障害児病棟実習

目的

障害をもつ小児に対する理解を深める。

目標

1．障害を持つ小児の日常生活動作への養育を理解する。

1）障害の種類と程度がわかる。

2）自分でできる動作がわかる。

3）習得しようとしている動作および介助法がわかる。
①食事　②排泄　③入浴・洗面　④衣服の着脱　⑤学習

2．小児の気持ちや考えを理解する。

1）自分の行動が子どもにどのように影響しているか考えることができる。

2）小児へ接し方の心配りについて考えることができる。

3）表情・しぐさ・ことばなどから小児の気持ちや考えを理解することができる。

3．障害のある小児との触れ合いを通してノーマライゼーションについて考えられる。

1）ノーマライゼーションについて考え、看護者としての役割がわかる。

2）社会資源や支援ネットワークの実際を理解できる。

3）関連職種との連携を踏まえた看護者の役割がわかる。

方法

1．一人を受け持ち実習を行なう。

2．小児に行なわれる養育活動の実際を知り、指導を受けながら参加することができる。

服装

・ユニホーム（パンタロン上下）
・エプロン着用（左胸に布に記名した名札を縫い付ける）
・上用･下用の靴

事前学習

1．児童福祉法、学校保健法、障害児福祉法
2．幼児期・学童期の成長発達
3．実施すると思われる看護技術の演習
4．重症心身障害児施設

保育園実習

目的

健康な乳幼児の理解を深め、基本的な生活習慣への援助を学ぶ。

目標

1．園児の成長・発達段階を理解する。

1）形態的成長の段階が理解できる。
①身長　②体重　③頭部　④胸部　⑤身体各部の割合　⑥歯
⑦骨の発育　⑧身体評価（カウプ指数・ローレル指数）

2）精神運動機能の発達が理解できる。
（1）精神運動機能を構成する各機能の発達段階がわかる。
①感覚　②運動　③情緒　④社会性　⑤言語　⑥知的機能
（2）集団生活が幼児の成長にどのように影響しているかわかる。

2．園児の成長・発達に応じた保育を理解する。

1）子どもにとっての遊びの重要性が理解できる。
（1）成長発達に適した遊び方がわかる。
①遊びの種類　②遊びかた
（2）遊んでいる時に生じやすい危険とそれに対する対策が考えられる。
（3）『あそび』よって成長できることがわかる。

2）子どもにとっての望ましい環境がわかる。
（1）園の保育方針を知る。
（2）安全と成長発達を考慮した物的環境がわかる。
（3）保育に必要な人的環境がわかる。

3）子どもが日常生活行動を獲得していくための保育方法が理解できる。
①食事　②排泄　③午睡　④手洗い・うがい・歯磨き
⑤衣服の着脱　⑥人との関わり　⑦安全教室

4）周囲の人々の幼児への関わり方がわかる。
（1）幼児と保母との関わり方の実際がわかる。
（2）保母と幼児の保護者との関わり方がわかる。
①送迎時の対応　②連絡ノート　③保護者会　④育児支援

3．施設における健康管理法を理解する。

1）健康管理の方法がわかる。
（1）毎日の健康状態の把握の方法がわかる。
（2）発熱や下痢等、異常が生じた場合の対処方法がわかる。
（3）プールや遠足などの行事の時の対処がわかる。
（4）集団で感染症が生じた場合の対処方法がわかる。

2）成長発達を知るための、健康診断がわかる。

方法

1．各成長発達段階の違ったクラスの園児を受け持つ。

2．子どもたちが自由に遊んでいるときは、傍観せず、その遊びに入り子どもの興味や遊び方等について観察する。

事前学習

1．児童福祉法
2．保育園とは、幼稚園とは
3．乳幼児各期の成長発達
4．基本的生活習慣としつけ
5．発達段階に応じた遊び

服装

・活動しやすい服装
・上着は飾りや紐のないシンプルなもの
・エプロン着用（左胸に、布にひらがなで記名した名札を縫い付ける）
・上履き

X. 成人看護学実習　（8単位）

目的

成人期にある対象を総合的に理解し、健康問題に応じた看護が実践できる能力を養う。

目標

1．急性期にある患者を理解し、急激な侵襲から回復させるための看護ができる。

1）手術を受ける患者と家族を理解し、術前の援助ができる。
2）手術や麻酔に伴う生体の変化を観察し、手術中の看護を理解できる。
3）手術直後の患者の状況について理解し、早期回復にむけての援助ができる。
4）手術後の患者の経過を理解し、セルフケアへの援助ができる。
5）救急時の看護について理解できる。
6）社会資源及び保健医療福祉チームメンバーの連携の必要性と看護者の役割が理解できる。

2．回復期にある患者を理解し、自立に向けての看護ができる。

1）回復過程にある障害を持つ患者を理解できる。
2）残存能力を把握し、日常生活行動の自立にむけての援助ができる。
3）家族の病気や治療に対する受け止め方を知り、家族を支援することができる。
4）退院にむけての指導ができる。
5）社会資源及び保健医療福祉チームメンバーの連携の必要性と看護者の役割が理解できる。

3．慢性期にある患者を理解し、疾病をコントロールしながら社会生活が営めるための看護ができる。

1）疾病を生涯にわたってコントロールしていく患者を理解できる。
2）患者の自己管理能力を把握し、病気と共存した生活にむけて援助することができる。
3）家族の受け止め方を知り、家族を支援することができる。
4）社会資源及び保健医療福祉チームメンバーの連携の必要性と看護者の役割が理解できる。

4．終末期にある患者と家族を理解し、必要な看護ができる。

1）治療困難な状況にある患者と家族が理解できる。
2）心身の苦痛を軽減させ、患者がその人らしく生活できるための援助を行うことができる。
3）家族の心理状況を理解し、支援することの意義が理解できる。
4）実習を通して、「死生観」を深める。
5）社会資源及び保健医療福祉チームメンバーの連携の必要性と看護者の役割が理解できる。

構成

成人看護学実習
8単位　360 時間

- 成人看護学実習Ⅰ　2単位（90時間）
  - 急性期にある患者の看護
    - ・手術を受ける患者の看護
    - ・急変しやすい状況にある患者の看護
- 成人看護学実習Ⅱ　2単位（90時間）
  - 回復期にある患者の看護
    - ・ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ を行っている患者の看護
    - ・ﾎﾞﾃﾞｨｰｲﾒｰｼﾞの変化のある患者の看護
- 成人看護学実習Ⅲ　2単位（90時間）
  - 慢性期にある患者の看護
    - ・病気を受容、共存していく患者の看護
- 成人看護学実習Ⅳ　2単位（90時間）
  - 終末期にある患者の看護
    - ・終末期の状況にある患者の看護

成人看護学実習Ⅰ

急性期にある患者の看護

目的

急性期にある患者を理解し、急激な侵襲から回復させるための看護ができる能力を養う。

目標

1．手術を受ける患者を理解し、術前の援助ができる。

1）手術方法（術式）を理解する。
（1）疾病の種類・病状がわかる。
（2）どのようにインフォームドコンセントがなされているかがわかる。
（3）手術方法がわかる。
（4）手術侵襲や合併症が予測できる。

2）麻酔方法を理解する。
（1）麻酔の種類や麻酔による侵襲がわかる。

3）患者の全身状態を評価する。
（1）患者の術前の全身状態を把握することができる。
（2）情報から術前の状態を評価し、今後起こりうる問題を考えることができる。
①手術前　②手術中　③手術直後　④手術後

4）手術に伴う考えや気持ちを理解する。
（1）患者の手術に対する不安や恐怖がわかる。
①手術や麻酔に関するもの　②疾病の回復過程や予後
③ボディイメージの変化　④社会的役割の遂行への危機感
⑤経済的負担に対する不安
（2）不安や恐怖などが身体に及ぼす影響がわかる。

5）術前の全身状態を整えるための援助をする。
（1）最良の状態で手術が受けられるように、全身状態を整えることができる。
（2）不安を軽減するための援助ができる。
（3）術前オリエンテーションの内容を理解し、実施できる。
①手術までのスケジュール　②麻酔について　③必要物品
④手術及び術後の経過　⑤排泄練習　⑥肺理学療法
⑦臥床時の含嗽　⑧筋力低下・拘縮予防訓練
（4）上記の術前トレーニングについて指導することができる。
（5）手術前日の看護の必要性を理解し、援助できる。
（6）手術当日の看護の必要性を理解し、援助できる。
①手術直前の処置　②手術室への移送
③手術室看護婦への報告

2．手術や麻酔に伴う生体の変化を観察し、手術中の看護を理解できる。

1）手術室における患者の気持ちを理解し、不安緩和のための援助がわかる。

2）麻酔・手術・手術体位による影響を理解し、手術の経過に沿った看護がわかる。

3．手術直後の患者の状況について理解し、早期回復にむけての援助ができる。

1）合併症を理解する。
（1）術直後の観察ができる。
①麻酔の覚醒状態　②呼吸状態　③循環動態　④創部
⑤水分出納
（2）術直後の合併症を考えることができる。

2）手術侵襲から回復過程における援助ができる。
（1）病室への帰室時、安全を考慮した移送ができる。
（2）安全・安楽な環境を整えることができる。
（3）合併症予防のための援助ができる。
（4）早期離床への援助ができる。

3）疼痛緩和のための援助ができる。
（1）術後疼痛が全身状態に及ぼす影響がわかる。
①疼痛の種類　②疼痛の原因
（2）疼痛増強要因を最小にし、安楽を図ることができる。

4）手術創部の治癒促進にむけての援助ができる。
（1）無菌操作による手術創部の処置ができる。
（2）ドレーンの管理ができる。
（3）全身状態を整えることができる。

5）精神的支援の必要性を理解し、援助ができる。

4．手術後の患者の経過を理解し、セルフケアへの援助ができる。

1）合併症・二次的障害を理解できる。

2）ＡＤＬ拡大にむけての援助ができる。
（1）ＡＤＬ拡大に伴う考えや気持ちが理解できる。
（2）状態に応じたＡＤＬ拡大への援助ができる。

3）精神的支援（ボディイメージの変化、社会復帰）の必要性と看護者の役割が理解できる。
（1）受容過程にある患者の心理過程がわかる。
①ボディイメージの変化に伴う受容過程における気持ちがわかる
（2）社会復帰にむけての看護者の役割がわかる。
（3）障害された形態・機能を考慮した指導ができる。

5．救急時の看護について理解できる。

1）観察の要点がわかる。
2）救急用具の使用目的がわかる。
3）救急薬品の内容がわかる。
4）病棟における救急時の対応がわかる。

6．社会資源及び保健医療福祉チームメンバーの連携の必要性と看護者の役割が理解できる。

1）病院の中における医療チームと各役割を理解し、利用することができる。
①救急外来　②救急時の医療体制システム

2）患者や家族が社会資源を有効に活用できるように指導できる。
①救急車　　②各施設内の救急室
③職場の医務室・学校の保健室

方法

1．一名の患者を受け持ち看護過程を展開する。
患者の条件－全身麻酔で手術を受ける患者
開腹術、開胸術、乳房切除術、その他

2．受け持ち患者とともに手術室へ入室することは可能である。

3．実習したい看護技術の中で、皮下注射や輸液の管理などバイタルサインに影響を及ぼしやすい技術については、教員または指導者から事前に技術の確認をうけること。

4．手術によっては実習時間以外の実習を希望することも可能である。事前に教員と指導者に申し出ること。

5．救急看護については臨床講義も取り入れながら学習する。

事前学習

1．成人期の発達と課題
2．麻酔・術式に関する事項
3．手術に伴う看護
4．実施する主な看護技術の演習
①無菌操作　②手指消毒　③ガウンテクニック
④包帯交換　⑤浣腸　⑥剃毛
⑦肺理学療法　⑧酸素吸入　⑨吸引
⑩救急看護ＡＢＣ　⑪術後ベッドの作成
⑫ドレーン挿入中の清拭　⑬点滴の固定と輸液の管理

成人看護学実習Ⅱ

回復期にある患者の看護

目的

回復期にある患者を理解し、自立に向けての看護ができる能力を養う。

目標

1．回復過程にある障害を持つ患者を理解できる。

1）機能障害と残存機能がわかる。
（1）患者の状態がわかる。
①症状の経過　②治療内容　③将来の見通し
（2）どのような障害があるかわかる。
①種類・部位　②残存機能の程度
③治療に伴う二次的障害・合併症
（3）機能障害が日常生活に及ぼす影響がわかる。

2）機能障害やボディイメージの変化に対しての心理状態を知り、受容過程がわかる。
（1）ボディイメージの変化がわかる。
（2）機能障害・ボディイメージに対する患者の考えや気持ちがわかる。
（3）受容過程の段階がわかる。

2．残存能力を把握し、日常生活行動の自立にむけての援助ができる。

.1）日常生活動作（ＡＤＬ）について査定できる。

2）リハビリテーションの内容を理解し実施できる。
（1）リハビリテーションの目標がわかる。
（2）リハビリテーションの内容がわかる。
（3）機能回復訓練に必要な器具の使用目的・方法がわかる。
（4）リハビリテーションプログラムに基づいた訓練ができる。
（5）日常生活の中に、リハビリテーションプログラムを取り入れることができる。
（6）実施に伴う危険や二次的障害の予防に対する援助ができる。
（7）リハビリテーションの達成状況がわかる。

3）精神的支援の必要性がわかり援助が考えられる。
（1）障害に対する患者の受容段階がわかる。
（2）患者にとっての基本となる対処行動がわかる。
（3）対処行動をふまえた援助方法が考えられる。

3．家族の病気や治療に対する受け止め方を知り、家族を支援することができる。

1）家族の病気・治療に対する考え方がわかる。
2）家族の治療・介護に対する知識がどの程度であるかわかる。
3）家族の介護に対する協力体制・経済状態などがわかる。
4）家族が必要とする援助内容と支援方法が考えられる。

4．退院に向けての指導ができる。

1）退院後の生活状況がわかる。
（1）退院時における日常生活動作と自立度を査定できる。
（2）退院後の物理的環境・人的環境がわかる。
（3）入院前の日常生活と、退院後の日常生活の変化がわかる。

2）退院後の日常生活について指導できる。
（1）退院後の日常生活の過ごし方についての援助がわかる。
（2）指導計画に基づいて指導ができる。

5．社会資源及び保健医療福祉チームメンバーの連携の必要性と看護者の役割が理解できる。

1）リハビリテーションチームと協力し援助する必要がわかる。
（1）患者の回復のために必要なリハビリテーションメンバーがわかる。
（2）リハビリテーションチームにおける看護者の役割がわかる。

2）患者や家族が必要な社会資源を活用できるような指導ができる。
（1）社会生活に適応していく上で必要な社会資源がわかる。
（2）具体的な活用方法・手段を説明することができる。
①社会福祉制度　②患者の会　③保健所・保健センター
④職場の医務室・学校の保健室

方法

1．一名の患者を受け持ち看護過程を展開する。

2．受け持ち患者の指導内容については、必ず事前に指導を受けて、許可を得てから実施する。

3．指導のためには指導計画を立て、パンフレット、冊子、模型、各種器具等を効果的に活用する。

事前学習

1．成人期の発達と課題
2．病気と治療法（リハビリテーションプログラムを含む）
3．回復期の状況にある対象への看護
4．リハビリテーション看護
5．実施する主な看護技術
①リハビリテーション　②ＡＤＬ評価　③カウンセリング
④指導技術

成人看護学実習Ⅲ

慢性期にある患者の看護

目的

慢性期にある患者を理解し、疾病をコントロールしながら社会生活が営めるための看護ができる能力を養う。

目標

1．疾病を生涯にわたってコントロールしていく患者を理解できる。

1）病状の経過がわかる。
（1）疾病の種類と病状の程度がわかる。
（2）全身に及ぼす影響がわかる。

2）将来の見通しがわかる。
（1）予後がわかる。
（2）退院時の状態がわかる。

3）治療について理解できる。

4）疾病の受容過程がわかる。
（1）疾病や治療に対する患者の考えや気持ちがわかる。
（2）疾病や治療に対してどのように認識しているかがわかる。

2．患者の自己管理能力を把握し、病気と共存した生活にむけて援助することができる。

1）日常生活に関する今までの生活習慣を理解できる。
（1）生活習慣を知る。
①一日の生活の流れ　②生活様式
（2）生活習慣において健康を妨げる因子を挙げることができる。

2）日常生活、治療に関する自己管理能力（セルフケア能力）を評価できる。
（1）受容段階がわかる。
（2）自己管理の必要性についてどのように認識しているかがわかる。
（3）疾病や治療に対してどの程度知識があるかわかる。
（4）疾病が長期化することに伴う患者の気持ちを理解することができる。
（5）疾病が長期化することに伴う家族・職場（社会）における役割や人間関係がわかる。
（6）セルフケア能力を査定し、必要な援助内容がわかる。

3）セルフケアを支えるための援助ができる。
（1）治療を日常生活に継続的に取入れる方法を患者と一緒に考えることができる。
（2）改善を必要とする日常生活習慣をどのように変更していくか、患者と一緒に考えることができる。
（3）療養生活に必要な疾病や治療に関する知識が、学習できるように援助することができる。
（4）療養生活に必要な技術が習得できるように指導できる。
①食事療法　②血圧測定・脈拍測定　③薬物の管理
④インスリンの自己注射　⑤リハビリテーション、運動療法

3．家族の受け止め方を知り、家族を支援することができる。

1）療養生活が長期化することによる家族の考えや気持ちを理解することができる。

2）家族が悩みや心配について表現できるように援助することができる。

3）療養生活に必要な技術が習得できるように指導できる。
①食事療法　②血圧測定、脈拍測定　③薬物の管理

4）患者家族の日常生活への影響を最小限にした介護を考えることができる。
①インスリンの自己注射　②リハビリテーション、運動療法

4．社会資源及び保健医療福祉チームメンバーの連携の必要性と看護者の役割が理解できる。

1）患者をとりまくサポートシステムが理解できる。

2）療養生活に必要な社会資源の内容がわかる。
①患者会　②保健所・保健センター
③職場の医務室・学校の保健室　④福祉事務所

3）生活を支える保健医療福祉チームにおける看護者の役割がわかる。

方法

1．一名の患者を受け持ち看護過程を展開する。

2．受け持ち患者への指導内容については、必ず事前に指導を受け、許可を得てから実施する。

3．指導のためには指導計画を立て、パンフレット、冊子、模型等を効果的に活用する。

事前学習

1．成人期の発達と課題
2．病気と治療法
3．慢性期の状況にある対象への看護
4．実施する主な看護技術
①自己血糖測定　②自己注射　③リハビリテーション
④カウンセリング　⑤指導技術

成人看護学実習Ⅳ

終末期にある患者の看護

目的

終末期にある患者と家族を理解し、必要な看護ができる能力を養う。

目標

1．治療困難な状況にある患者と家族が理解できる。

1）症状と予後がわかる。
（1）患者の病状の経過がわかる。
（2）現在の患者の病態・症状がわかる。
（3）今後起こりうる状況がわかる。
（4）患者のはたしてきた役割と価値観を理解する。
①生活史
②価値観・考え方
③家族の中の役割・地域の中の役割
④対処行動

2）医療処置の目的と意味がわかる。
（1）何を目的とした治療かがわかる。
（2）治療の効果の状況がわかる。
（3）医師の治療に対する考え方がわかる。

3）患者と家族の病気に対する受容状況がわかる。
（1）病状・治療に対して患者・家族へどのようにインフォームドコンセントされているかわかる。
（2）病状・治療の説明に対し患者・家族がどのように理解しているかわかる。
（3）患者・家族が病状・治療に対してどの様に感じ・考えているかわかる。

2．心身の苦痛を軽減させ、患者がその人らしく生活できるための援助を行なうことができる。

1）心身の苦痛がわかる。
（1）身体的苦痛がわかる。
（2）心理的苦痛がわかる。
（3）苦痛の原因･誘因がわかる。

2）死の受容過程を通して患者の状況がわかる。
（1）死の受容過程のどの段階にあるかわかる。
（2）生きることについて、どのように考えているかがわかる。

3）苦痛軽減のための援助を考え実施できる。
（1）心身の苦痛が日常生活に及ぼす影響がわかる。
（2）身体的苦痛を最小限にするための援助を行うことができる。
（3）体力の消耗を少なくし、安全をふまえた日常生活への援助ができる。

4）患者・家族にとって意義ある生活を支える援助が考えられる。
（1）患者や家族が何を希望しているのかわかる。
（2）患者の希望を可能な限りかなえるような援助が考えられる。
①生を終える場所　②治療内容　③仕事・役割
④家族との関わり

5）危篤時・死亡時の援助が理解できる。
（1）起こりうる死の兆候を予測し、観察できる。
（2）安らかな死への援助が考えられる。
（3）家族の気持ちを受け止め、支援できる。
（4）宗教的配慮がわかる。

3．家族の心理状況を理解し、支援することができる。

1）家族の心理状況を理解できる。
（1）家族の患者への思いがわかる。
（2）医療従事者に対する思いや期待がわかる。
（3）家族が死の受容過程のどの段階にあるかがわかる。

2）家族への援助を行なうことができる。
（1）家族の希望をできる限り考慮した援助が考えられる。
（2）家族の心身の疲労が緩和できるための援助が考えられる。
（3）患者の死後における家族への援助を考えることができる。

4．実習を通して「死生観」を深めることができる。

5．社会的資源及び保健医療福祉チームメンバーの連携の必要性と看護者の役割を理解できる。

方法

1．一名の患者を受け持ち看護過程を展開する。

2．危篤時・死亡時の看護に対して、臨床講義も取り入れながら学習する。

事前学習

1．成人期の発達と課題
2．病気と治療法
3．終末期の状況にある対象への看護
4．終末期医療・ホスピス
5．実施する主な看護技術
①カウンセリング　②死亡時の看護

ＸＩ．老年看護学実習　（４単位）

目的

老年期にある対象を総合的に理解し、健康問題に応じた看護が実践できる能力を養う。

目標

１．老年期にある対象の生活の場と生活を理解する。
　１）老年者の果たしてきた役割と価値観が理解できる。
　２）地域で生活する老年者の日常生活状況が理解できる。
　３）老年者とその家族がどのような環境のなかで生活しているかを知る。

２．加齢や健康障害が心身及び日常生活に及ぼす影響を理解し、必要な援助を実践する。
　１）加齢や健康障害に伴う身体的・精神的・社会的機能の変化が理解できる。
　２）加齢や健康障害・治療が日常生活に及ぼす影響が理解できる。
　３）老年者の生活習慣や生活史を重視した援助ができる。
　４）残存機能をいかした日常生活の自立への援助ができる。
　５）二次的障害の予防や機能回復のための援助ができる。
　６）安全性を考えた生活環境を整えることができる。

３．老年者の健康的な側面を助長し、ＱＯＬを高めるための支援活動を理解する
　１）老年者の生きがいと活動の場が理解できる。
　２）レクリエーションの意義と内容が理解できる。
　３）尊重のニーズ、愛情のニーズが充足されるための援助ができる。
　４）生・死・性・人生などに関して老年者の考えや思いを理解し、支援活動を考えることができる。

４．老年者をとりまく人々と必要な支援活動を理解する。
　１）老年者と老年者をとりまく人々との関係が理解できる。
　２）老年者をとりまく人々の、生活や疾病・治療に対する考えや思いが理解できる。
　３）老年者をとりまく人々とともに、老年者を支援することができる。

５．老人福祉法、老人保健法の適応の実際を知り、保健・医療・福祉チームにおける看護職の役割を理解する。
　１）特別養護老人ホーム、老人保健施設等の役割と機能が理解できる。
　２）特別養護老人ホーム、老人保健施設等で働く職種と活動内容が理解できる
　３）福祉施設と医療機関との連携の実際を知る。
　４）特別養護老人ホーム、老人保健施設等が生活の場としてより良い施設となるための対策が理解できる。
　５）特別養護老人ホーム、老人保健施設等に働く関連職種との連携をふまえた看護職の役割が理解できる。

６．実習を通して自己の老年観を表現する。

構成

- 老年看護学実習
  4単位　180 時間
  - 老年看護学実習Ⅰ　2単位　90時間
    - 健康障害をもつ老年者の看護　90時間
  - 老年看護学実習Ⅱ　2単位　90時間
    - 健康障害をもつ老年者の看護　30時間
    - 施設に入所している老年者の看護
      - 30時間
      - 12時間
    - 老年者の健康を保持増進する看護　18時間

事前学習

1．老年期の特徴
2．老年看護の機能と役割
3．老人保健法、老人福祉法、介護保険法
4．老人保健施設、老人福祉施設
5．高齢者ケアプラン
6．リハビリテーション、レクリエーション
7．痴呆性老人の看護
8．船橋市と習志野市の人口構造

老年看護学実習Ⅱのスケジュール

	1週目	2週目	3週目				
			月	火	水	木	金
学生3名	老人保健施設	特別養護老人ホーム	養護老人ホーム	養護老人ホーム	福祉センター	福祉センター	福祉センター
学生3名	特別養護老人ホーム	老人保健施設	福祉センター	福祉センター	養護老人ホーム	養護老人ホーム	福祉センター

病棟実習

目的

健康障害のある老年者およびその人を支える人々に対する看護が実践できる能力を養う。

目標

1．加齢に伴う身体的・精神的・社会的機能の変化を理解できる。

1）加齢に伴う身体的機能の変化がわかる。
①運動機能の状態　②感覚機能の状態　③生理機能の状態

2）加齢に伴う精神的機能の変化がわかる。
①心理状態がわかる。
②知的機能の状態がわかる。（記憶力・判断力・学習意欲）

3）入院前の生活習慣がわかる。
①日常生活動作が査定できる。　②生活様式がわかる。

4）老年者のはたしてきた役割と価値観を理解する。
①生きてきた社会、生活史がわかる。
②何を大切に生きてきたか価値観がわかる。
③家族の中の役割がわかる。

2．健康障害や治療が心身及び日常生活に及ぼす影響を理解し必要な援助ができる。

1）健康障害の程度と経緯がわかる。
①疾病の発症の時期・病態・症状・予後
②合併している疾病　③対処行動

2）治療の目的・内容がわかる。

3）治療の生体に及ぼす浸襲がわかる

4）健康障害や治療に対する受け止め方がわかる。

5）治療・検査に伴う日常生活行動の制限を理解し、対象の生活習慣を踏まえた援助ができる。

6）治療・検査に伴う苦痛や不安を緩和するための援助ができる。

7）二次的障害の予防や機能回復のための援助ができる。
①治療・検査に生じやすい合併症と援助
②対象におこりうる二次的障害と援助（身体面・精神面）

8）安全性を考えた生活環境が整えられる。

3．対象をとりまく人々の疾病や入院に対する受け止め方を知り必要な支援がわかる。

1）対象をとりまく人々と対象の関係がわかる

2）対象を支えている人の考えや思いを知ることができる。

3）対象を支えている人々と共に支援することができる。

4．対象の退院後の生活に活用できる社会資源について考えられる。

方法

1．患者を受け持ち、看護過程を展開する。

特別養護老人ホーム実習

目的

特別養護老人ホームで生活している対象を理解し看護者の役割を学ぶ。

目標

1．特別養護老人ホームの役割と機能について理解する。

1）施設の概要・事業内容を知る
①設置主体・沿革・規模・財源
②入所の方法・定員・費用
③構造・設備・安全対策
④行事・レクリエーション

2）入所者の特徴を知る。
①入所者の健康状態　②社会的背景

3）特別養護老人ホームの課題がわかる。
①設備，②人員・職種間の連携　③家族関係　④経済

2．対象の生活史を重視した日常生活の援助方法を理解する。

1）健康状態（身体機能、精神機能、知的機能）を知る。

2）生活状況がわかる。
①生活環境とその工夫
②一日の生活の流れ（生活様式、生活時間など）
③日常生活動作（ＡＤＬ）
④生活の中で大切にしていること
⑤対人関係

3）生活史を重視した援助方法が考えられる。
①食事の援助　②排泄の援助　③清潔の援助　④移動・姿勢の援助
⑤活動・休息の援助　⑥衣服の援助　⑦生活環境の整備
⑧精神機能、知的機能への援助

3．健康的な側面を助長や生きがいをもてるための支援活動を理解する。

1）施設におけるレクリエーション、行事の内容とその意義がわかる。

2）レクリエーション、行事の実際を知る。

3）個別に応じた余暇活動への援助が考えられる。

4）家族との関わりについて理解できる。

4．入所者を支える職種の役割とその連携を理解する。

1）生活面を支える職種とその役割と連携を知る。
①看護職者
②介護職者
③その他の医療従事者
④事務に関する職種

2）入居者の健康管理の方法と看護者の役割を知る。
①日常生活における健康管理
②提携病院との連携

方法

1．実習初日に施設よりオリエンテーションをうける。

2．入居者を１～２名（１名は痴呆老人）を受け持ち、日常生活援助はスタッフとともに行う。

2．レクレーション、行事に参加しながら多くの人と関わる。

4．カンファレンスを通して痴呆老人との関わりを学ぶ。

服装

・運動着　　・エプロン　　・ナースシューズ
・名札はエプロンに縫い付ける

養護老人ホーム実習

目的

養護老人ホームで生活している対象を理解する。

目標

1.養護老人ホームの役割と機能について理解する。

1）施設の概要・事業内容を知る
①設置主体・沿革・規模　②入所の方法・定員・費用
③構造・設備・安全対策　④行事・レクリエーション

2）入所者の特徴を知る。
①入所者の健康状態・日常生活の自立状況　② 社会的背景

3）特別養護老人ホームの課題がわかる。
①設備　②人員・職種間の連携　③家族関係　④経済

2．対象の生活状況と援助の実際を理解する。

1）生活環境を知る。
①物的環境を知る。
②人的環境を知る。

2）生活状況を知る。
①生活環境とその工夫　②一日の生活の流れ（生活様式，生活時間）
③日常生活動作（ＡＤＬ）④生活の中で大切にしていること
⑤対人関係

3）日常生活における援助内容を知る。
①食事の援助　②排泄の援助　③清潔の援助　④移動・姿勢の援助
⑤活動・休息の援助　⑥衣服の援助　⑦生活環境の整備
⑧精神機能、知的機能への援助

4）集団生活での人間関係の調整がわかる。

3．健康的な側面を助長し、ＱＯＬを高めるための支援活動を知る。
①健康管理　②レクリエーション
③性に関する援助活動

4．入所者を支える職種とその連携を理解する。

方法

1．実習初日に施設よりオリエンテーションをうける。

2．日常生活援助は寮母と共に行う。

3．多くの入所者と関わるようにする。

老人保健施設実習

目的

老人保健施設で生活している対象を理解し、施設における看護の役割を学ぶ。

目標

1．老人保健施設の役割と機能について理解する。

1）施設の概要・事業内容を知る。
①設置主体・沿革・規模　②入所の目的、方法・定員
③構造・設備・安全対策　④サービス内容

2）入所者の社会的特徴を知る。
①入所者の健康状態　②社会的背景

3）老人保健施設の課題がわかる。
①設備　②人員･職種間の連帯
③家族との関わり

2．老年者の自立を支援した日常生活の援助ができる。

1）対象の生きてきた過程や療養生活への思いがわかる。

2）対象の健康障害の特徴がわかる。

3）対象の退所時の目標と日常生活動作がわかる。

4）残存機能をいかした日常生活の援助を行う。
①食事の援助　②排泄の援助　③清潔の援助
④移動・姿勢の援助　⑤活動・休息の援助　⑥衣服の援助
⑦生活環境の整備　⑧精神機能、知的機能への援助

5）健康的な側面を助長するための援助内容がわかる。
①リズムある生活　②こころの安定
③生きがいや楽しみがある生活

6）家族の介護力を高める援助が考えられる。

3．施設における保健医療福祉チームの連携を知り看護職の役割がわかる。

1）入所者をとりまく保健医療福祉チームの活動を知る。

2）チームにおいて看護者としてどのような働きかけが必要かわかる。
①健康管理　②日常生活の援助に関する介護職との連携
③医療福祉機関との連携

方法

1．実習初日に施設よりオリエンテーションを受ける。

2．老年者を理解するために２人以上の入所者を受け持つ。

3．レクリエーション、行事などに参加しながら多くの人と関わる。

4．一日はデイケアに参加する。

服装

・運動靴　・エプロン　・ナースシューズ
・名札はエプロンに縫い付ける

老人福祉センター実習

目的

地域で生活する老年者の活動や生きがいについて知り、老年者の理解を深める。

目標

1．老人福祉センターの役割と機能について理解する。

1）福祉センターの概要、事業内容を知る。
①設置主体・規模、広報活動
②各職種
③各種の相談内容
③教養・趣味の講座内容
④レクリエーション内容

2）利用者の施設に対する期待を知る。

2．老年者とふれあい、老年者の生活を知る。

1）家庭・地域社会における役割を知る。
①家族の中での役割
②地域の中での役割

2）加齢に伴う日常生活の変化を知る。
①不便と感じていること
②老年者になって良い方に変わったこと

3）地域での交流や生きがいを知る。
①楽しみとなっていること
②支えとなっていること
③交流の実際

4）健康を保ための工夫や健康に対する意識を知る。
①食事の配慮や運動等日常の中で
②健康のチェックや病院の利用等

3．生・死・性・人生などに関して老年者の思いを知る。

方法

1．実習初日に施設よりオリエンテーションをうける。

2．対象者は特に限定せず、多くの人と関わる。

3．各クラブに参加しながら利用者とコミュニケーションをはかる。

4．施設外に出る時は許可を得、帰館後報告をする。

服装

・活動しやすい服装
・名札を付ける

ＸⅡ．実習上の留意事項

１．実習時間

原則として８時３０分～１５時３０分の６時間とする。

２．オリエンテーション

１）校内オリエンテーション

実習開始前に学校で実施する。

精神看護学の場合は事前に一括して実習病院で実施する。

○復光会総武病院：一日所要

○国府台病院　　：半日所要

２）病棟オリエンテーション

原則として実習開始日に臨地実習指導者からｵﾘｴﾝﾃｰｼｮﾝを受ける。

内容：

①学生の自己紹介・職員紹介　②病棟の構造及び設備　③物品の所在と管理

④看護体制と業務分担　⑤入院患者の特徴　⑥週間予定，日課

⑦記録、書類の取り扱い　⑧患者の概要及び受持ち患者への紹介

⑨事故防止及び災害発生時の処理

３．カンファレンス

目的：①実習中に学生が経験した困難な事柄や戸惑い、気がかりなどについて学生同士が教員や指導者をまじえて話し合い、体験を共有し深めることである

②問題の明確化や自己の理解と患者の理解の糸口になるような機会とするとともに、学生自身の精神的な健康を維持するためのお互いのサポートの場である。

・カンファレンスは学生の自主運営とする。

・カンファレンスに必要な資料は事前に準備しておく。

・各実習場で計画されている場合は、その計画に準ずる。

・カンファレンスの内容は記録する。

○基礎看護学実習では，指定の用紙に記入する。

○領域別の実習では、各実習グループで「カンファレンスノート」を作成し記録する。

ノートはＡ４サイズを使用する。

４．実習時間外の実習

１）原則として、７時３０分から１７時３０分までとする。

２）時間外実習を行う場合は、「時間外実習願」に必要事項を記入し原則として、前日の昼休みまでに担当教員に提出する。

３）臨地実習指導者に提出する用紙は担当教員の印があること。

4）実習終了後、「時間外実習願」に実習指導者印をもらい担当教員へ提出する。

5．指導案、パンフレットについて

1）事前に実習場責任者の許可を得る。

2）患者や利用者に渡す場合は「学校名」と「氏名」を記載する。

6．実習グループの運営

1）グループリーダーの役割

（1）グループ全体の実習が円滑に進むようにグループの調整を行う。
（2）毎朝の出席状況を臨地実習指導者と担当教員に連絡する。
（3）実習初日と最終日に挨拶をする。
（4）カンファレンスのテーマについてメンバーと話し合い、臨地実習指導者と担当教員に連絡し日時を決定する。
（5）実習中及び終了後指示された記録物をまとめて提出する。

2）グループメンバーの役割

（1）グループメンバーとして、グループ全員の実習が円滑に行えるよう相互に協力し合う。
（2）緊急時の連絡ネットワークを作る。

XIII. 実習中の諸注意

1．出席・欠席に関すること

1）実習場には実習開始５分前には到着していること。

2）遅刻・欠席・欠課・早退をする場合は、事前に臨地実習指導者及び担当教員に届けでる。
実習当日急用により欠席する場合は、実習開始時間前に実習場と学校に連絡する

3）実習出席表は各自が記入し、実習終了日に実習場の指導責任者の認印をもらい、学校へ記録物と共に提出する。

4）学習内容によっては実習予定外の日にも行う。

2．服装について

1）指定されたユニホームを着用し，名札は左胸につける。
（靴下またはストッキングは白色または肌色、ナースシューズは白色，防寒用カーディガンは白，紺，黒のいづれかとする）

2）爪は短く切り、マニキュアはしない。

3）頭髪は清潔に纏め、ユニホームの襟につかない長さとする。
（ヘアピンやゴムは茶色、紺色、黒色とする。髪飾りはシンプルなデザインの物とする。）

4）指輪，ネックレス，ピアスなど装飾品はつけない。

3．使用する部屋の取り扱い方

1）使用方法は各実習施設の指示に従う。

2）責任を持って整理・整頓に努める。

3）飲食は許可されている部屋のみ使用する。

4）禁煙を守る。

5）実習終了時は、特に忘れ物がないよう注意する。

4．実習に臨む態度について

1）積極的な姿勢で実習に臨む。
・時間を厳守し、機敏に行動する
・患者・家族の安全を守るよう最大限の注意を払う。
・安全で安楽を基本とした援助技術を提供できるよう、事前学習を行う。

2）常に看護学生にふさわしい言動を忘れない。
・実習始めと終了時挨拶をする。
・学生間では名字で呼び合う。
・病棟や廊下・階段では私語を慎み，静かに歩く。

3）実習場をはなれる時は、臨地実習指導者の許可を得る。

4）実習場で知り得た患者や対象の情報は厳守し、口外しない。

守秘義務は刑法１３４条、母体保護法第２７条、精神保健福祉法第５３条などによって規定されており、職務上知り得た秘密を正当な理由なく他人に漏らした場合には罰せられる

・学生の記録類は患者の情報が記載されているので、電車やレストラン等で置き忘れたりしないこと。

5）患者・家族・面会人からの質問を受け不明な点がある場合は、自己判断せずに担当教員や臨地実習指導者に相談したり確認をする。

6）患者からの贈り物は受け取らない。
患者に住所を聞かれた場合は，学校の住所を答える。

7）援助実施後は必ず担当ナースに報告する。

8）実習場で使用した物品は所定の場所に戻し、次の人がすぐ使えるように整理整頓する。
・病棟の物品は外部に持ち出さない。（実習終了時、ﾎﾟｹｯﾄの中を確認する）
・カルテ・看護記録などは所定の場所より持ち出さない。

9）記録物は所定の位置に置き持ち歩かない。メモは小冊子になっているものを使用する。

10）病棟の電話を受けるときは身分を明らかにし、簡潔明瞭に応答する。
簡単な必要事項であれば聞いてメモをとり報告する。

11）自己の健康管理に注意する
・実習中怪我や病気になった場合、担当教員もしくは病棟指導責任者に報告し、処置を講ずる。

5．医療事故の予防について

1）感染予防のため看護行為の前後には必ず手洗いをする。
ユニホームは頻回に洗濯し、清潔なものを着用する。
実習中感染症状が出現した場合は、早期に受診する。
実習施設での感染防止のための約束事を守る。

2）患者のケアを行う時、特に看護技術を展開する時は必ず担当教員や臨地実習指導者に報告し、指示を受ける。

4）実習終了後、「時間外実習願」に実習指導者印をもらい担当教員へ提出する。

5．指導案、パンフレットについて

1）事前に実習場責任者の許可を得る。

2）患者や利用者に渡す場合は「学校名」と「氏名」を記載する。

6．実習グループの運営

1）グループリーダーの役割
（1）グループ全体の実習が円滑に進むようにグループの調整を行う。
（2）毎朝の出席状況を臨地実習指導者と担当教員に連絡する。
（3）実習初日と最終日に挨拶をする。
（4）カンファレンスのテーマについてメンバーと話し合い、臨地実習指導者と担当教員に連絡し日時を決定する。
（5）実習中及び終了後指示された記録物をまとめて提出する。

2）グループメンバーの役割
（1）グループメンバーとして、グループ全員の実習が円滑に行えるよう相互に協力し合う。
（2）緊急時の連絡ネットワークを作る。

7．実習記録

★鉛筆で記入する

	用　　紙	使　用　方　法
基礎看護学	Ⅰ－1	指定の用紙に記載
	Ⅰ－2	
	行動計画用紙	患者紹介
	実習記録NO1	日常生活の状況
	NO2	日常生活援助の実際
	NO3	
	ｶﾝﾌｧﾚﾝｽ用紙	ｶﾝﾌｧﾚﾝｽ
	Ⅱ 学習テーマ設定用紙	指定の用紙に記載

母性看護学	実習記録N01	受持ち褥婦記録
	N02	分娩経過及び新生児記録
	N03	褥婦経過記録
	N04	新生児経過記録
	N05	成人看護学実習記録N06
	N06	成人看護学実習記録N07
	N07	成人看護学実習記録N08
	N08	実習行動計画表
精神看護学	実習記録N01	実習事前レポート
	N02	受持ち患者基礎情報
	N03	受持ち患者記録１（セルフケア要素）
	N04	受持ち患者記録２（看護計画）
	N05	毎日の記録
	N06	自由記述
	N07	再構成
在宅看護論	実習記録N01	受持ち患者基礎情報
	N02	受持ち患者記録（セルフケア要素）
	N03	セルフケア要件と援助計画
	N04	セルフケア要件と援助計画
	N05	訪問看護実習記録
	N06	保健所、外来、健康管理ｾﾝﾀｰ実習記録
小児看護学	実習記録N01	受持ち患者記録①
	N02	受持ち患者記録②
	N03	成人看護学実習記録　N0７
	N04	成人看護学実習記録　N08
	N05	実習行動計画表
	N06	保育園実習記録
	N07	重症心身障害児病棟実習記録

成人看護学	実習記録N01	基本的欲求に影響を及ぼす常在条件
	N02	基本的欲求を変容させる病理的状態
	N03	基本的欲求を変容させる因子：与薬内容一覧
	N04	基本的欲求を変容させる因子：検査結果一覧
	N05	基本的看護の構成要素
	N06	情報関連図
	N07	問題リスト
	N08	看護計画
	N09	実習行動計画表
老年看護学	老年看護学Ⅰ	成人看護学実習記録N0１～　N0９まで使用
	老年看護学Ⅱ	指定の用紙に記入

実 習 要 項

平成12年10月１日　発行

発行　社会保険船橋保健看護専門学校
千葉県船橋市海神町西１丁目1042番地２
電　話　047－495－7711
ＦＡＸ　047－431－0861